

人生ハンド仏句

第15号

H. 15. 6. 1
(毎月1日発行)

編集・発行
玉蓮山
真成寺
編集部

我執を離れる^{がしゅう}

住職 谷川寛俊

山に出来たばかりの岩石は、とがって角があり、ゴツゴツしています。その岩が長い間に、風雨に晒され、あるいは川に流されて、だんだん丸味を帯びた石へと変わっていきまます。

私たちが人間も、同じです。子供の時は、まさに岩のように粗野で荒削り、むき出しのままの姿です。それが世間の波に揉まれ、教育をされて、学習もし、だんだんに丸味のある人間へと成長してきます。

ところが、《我》の強い私たちは、なかなかこの丸味というのが出来にくいものです。つい、自分の言いたい事だけを言い、したいことだけを主張してしまいます。

もっと相手のことを考え、こちらが広い心になっておればと、後悔をすることもしばしばあります。しかし、そのつど、反省をし努力していけば、私たちは少しずつながらも、心の角が取れ、丸味のある人格を形作っていくことができるでしょう。

《人生》という流れの中で、あなたご自身の心を、丸味と輝きのあるものに磨き上げて下さい。お互いに、それが修行というものです。

法華経に「以道受樂」という教えがあります。道を行ふ事が楽しくなくては長続きしません。他人であっても心が通じ合えばこの世は楽しくなります。

家族が異体同心すれば必ずその家庭は円満で楽しい家庭になります。会社も同様で社員が一つの心になれば必ずその会社は繁栄します。人と人の心がつうじあうところに信仰の醍醐味がある。

日蓮大聖人様が上野殿御返事の中で「人を教訓せんよりも、我が身を教訓あるべし」と仰せになっておられますが、人を指導する立場の人は皆同じで子供を教育する両親も同様です。

あります。考えると人に正しい事を行うよう導くには、先ず自分が忠実に守る事が大切であり

日蓮大聖人様は異体同心こそ和合の極意である

と教えられます。家庭の円満も和合から、会社の繁栄も和合から、寺院の繁栄も和合から、そして立正安国も宗門の興隆も和合から始まります。それが信仰の極意です。

我を

はるな

心ころころ

丸くなれ